

京山公民館では

■主催事業として、住民の生活課題、地域課題、社会的課題の解決に向けて事業を実施している。重点テーマとして、子育て・青少年健全育成、環境問題、男女共同参画、高齢者の学習、健康づくり、共生のまちづくりを掲げ、テーマにそった事業を全館で実施。

2016年度 主催事業…30（別紙のとおり）、クラブ講座89

■京山公民館を拠点に、学校や公民館、地域コミュニティーが一体となった地域ぐるみのESDを推進しています。

「一人の百歩より百人の一步」「(E)えーもんを(S)子孫の(D)代まで」を合言葉に取り組んでいます。

■ESDの経緯

1997年 旭川流域ネットワークの活動始まる

1998年 京山地区で観音寺用水プロジェクト開始

2001年 水辺再発見 観音寺用水MAP作成

■2002年 京山地区在住で岡山ユネスコ協会理事の池田満之さんがヨハネスブルグ・サミットに参加。ユネスコが主催している「持続可能な未来のための教育会合」に「ESDの背景・場面」セッションで、岡山市特別代表として「持続可能な都市を目指して」と題した岡山市の発表と提案をしました。

■2003年 地域ぐるみでESDを推進していくこうと、小学校、中学校、高等学校、大学へ理解と協力を依頼。

小学校で総合学習の中で環境問題に取り組んでいる先生、中学校の科学部顧問の先生などと相談、連携が始まりました。

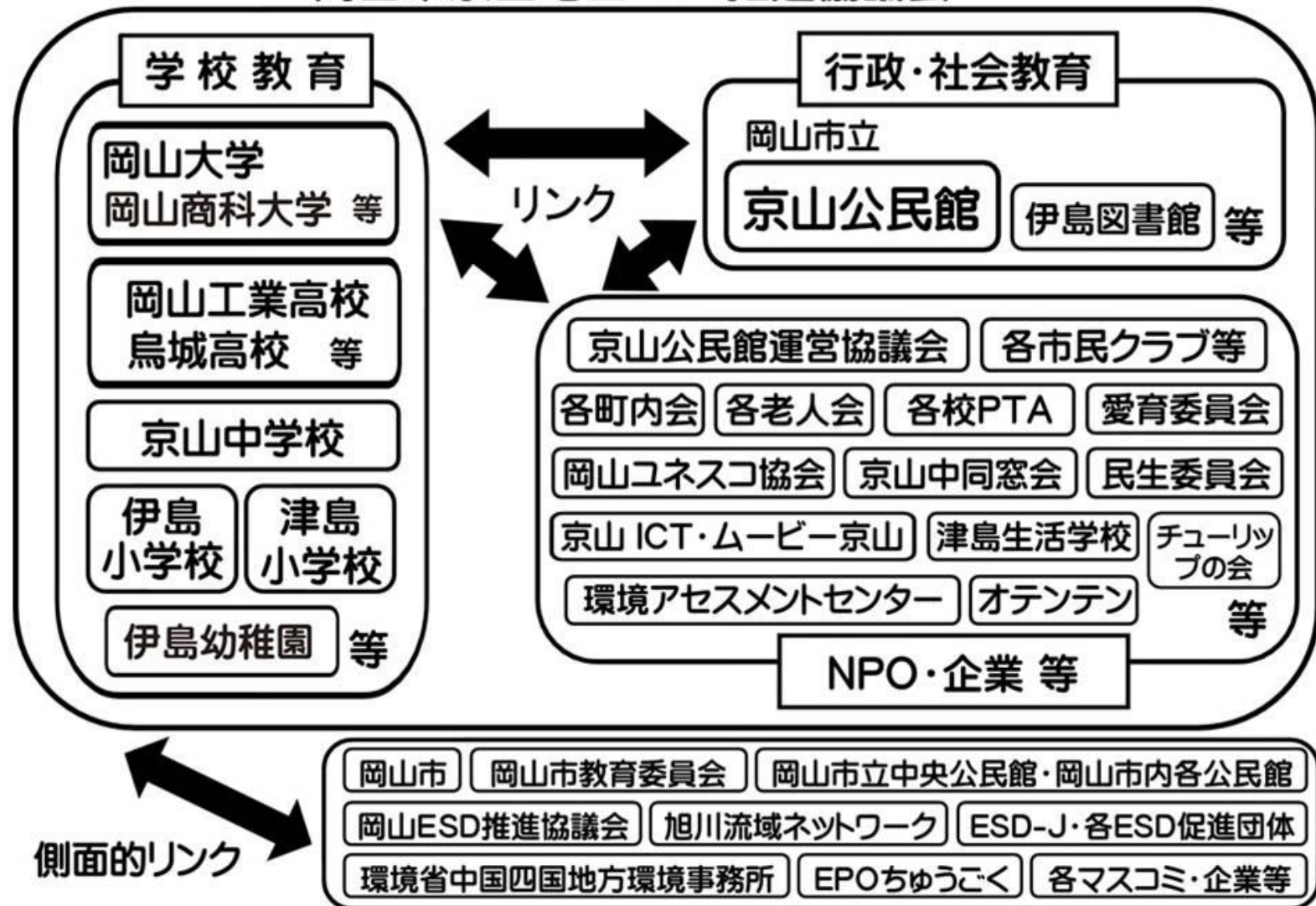
町内会や老人クラブへも働きかけを行いました。

2003年(平成15年)度から「子どもの水辺てんけんプロジェクト」を行い、その成果をふまえて、2004年(平成16年)度から「岡山市京山地区ESD環境プロジェクト」(Okayama Kyoyama ESD Environment Project: 通称「岡山KEEP」)として取り組んでいます。

■2006年度から

地域全体で持続的にESDを推進していくために、京山地区ESD推進協議会を立ち上げ、さまざまな活動を行っています。

岡山市京山地区ESD推進協議会



■京山地区の「地域課題ランキング」ワークショップの結果

◎地域課題の1位は「交通関係」

内訳:1位「自転車」(マナーが悪い等)

2位「自動車」(運動公園周辺での駐車場問題等)

3位「道路」(道路のでこぼこや街路樹不足等)

4位「公共交通」(バスが便数や路線減少で不便等)

◎地域課題の2位は「コミュニティ、若者・高齢者関係」

内訳:1位「コミュニケーション不足」

2位「少子・高齢化の進行」

3位「若者の無関心とマナーの悪さ」

◎地域課題の3位は「生活環境関係」

内訳:1位「ゴミ」(捨て方が悪い)

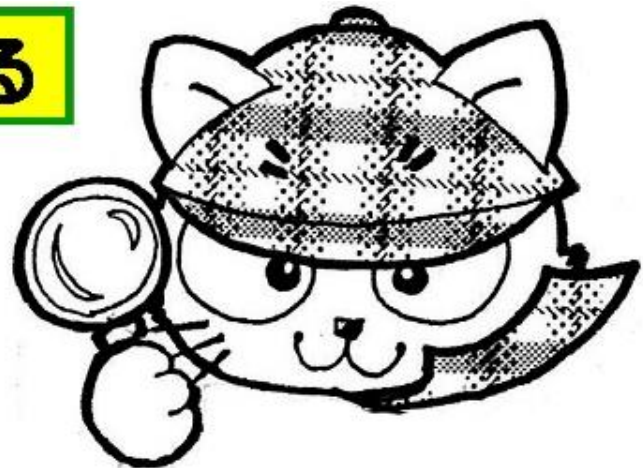
2位「騒音、ハト害」

◎地域課題の4位は「町並み関係」

内訳:マンションの乱立、空き家問題、町並みが汚い、住宅と農地の混在、
コンベンション施設不足、大型小売店の出店問題等

※このほかに、**多文化共生、安全・安心・防災(共助)、水・食糧・資源エネルギーの地域自給など(地域連携)**が重点課題としてあがっています。

地域の特徴や課題をESDの視点で見る



- 文教地区で教育環境が良い
- 津島遺跡等、名所や旧跡が多い
- 京山や総合グラウンド等、自然が多い
- 座主川、観音寺用水等、潤いがある
- 岡山駅から近く、医療機関等も充実していて暮らしやすい
- ▲大学生等の学生や単身赴任者等が多いため、ゴミ捨てるのルール不遵守、自転車交通や歩行のマナー低下等が課題
- ▲流動人口が多い(10年で10人に7人は入れ替わる)コミュニティの継続性や伝統文化の継承等が課題
- ▲在住外国人が岡山市内で最も多いと言われている宗教や言語、文化や風習の違い→多文化共生が課題
- ▲古来から交通の要所で、自動車等の交通量が多い排気ガスによる大気汚染や交通事故リスクが高い
- ▲地区内のバス路線は縮小、身近な商店の数も減り、高齢者等にとっては日常の買い物の負担が増している

ESDの視点で「京山地区が目指す地域像」

- ①子どもも大人も共に学び合い、
社会的課題に協働して取り組む地域
- ②地域の絆を強め、伝統文化を伝承し、
人と自然が共生する地域
- ③言葉や文化の壁を越えて、
同じ地域に住む外国人と共生する地域
- ④障害者や高齢者も誰もが安心して暮らせる、
安全で安心な住みよい地域
- ⑤学んだことを活かせる場をつくることで、
学びから持続発展し続ける地域

目標1. 子どもも大人も共に学び合い、社会的課題に協働して取り組む地域をつくりします。



共に学び
共に考え
人を育て
絆を構築

体感



源流体験エコツアー



京山ESDフェスティバル(ESDサミット)

学校と地域の合同研修

環境てんけん活動(年2回、春と秋に実施)



総合グラウンド



京山公民館前



総合グラウンド



観音寺用水

源流体験エコツアー

毎年、夏と冬に、旭川の上流域の自然や暮らしを5感で感じる体験活動を実施



京山地区ESDフェスティバル



ESDスティバルフロント



劇団「かわのこい」公演



研究発表(津島小学校)



熟議(分科会)

ほっとスペース放課後



オープニングセレモニー



宿題など



自由あそび



イベント(そうめん流し)

目標2. 地域の絆を強め、伝統文化を伝承し、人と自然が共生する地域をつくります。



郷土伝統芸能「津島八朔踊り」の伝承



伝統的な省エネ技術の伝承



半世紀ぶりに復活させた「水神祭」



伝統的な郷土の食文化(A級グルメ)の伝承
「岡山の寿司」の伝承: 備前藩主の池田光政は、質素儉約を命じたため、人々は具材を重箱の底に隠し、食する時にひっくり返して食べた。

京山ICTの活躍

- 公民館事業をサポートする市民ボランティアグループ
- 各種パソコン教室、知的障害者のためのパソコン教室など開催
- 岡山KEEPの活動をビデオに記録・・・地域や他地域にも広げる力に
- てんけん活動、エコツアーの際、子どもたちの安全確保や資料づくりのサポートなど。横断幕づくりやTシャツのプリント。



ムービー京山

地域の記憶づくりを通して持続可能な地域づくりを考える

出演者
.....50名順

弥生人
池田満之
こども（山の学校）
岩重祐太郎
弥生人
岩谷光代
難波康雄
弥満之（現在）
野口武志
こども（山の学校）
野口悠吾
岩谷
信清安正
青年（運動公園）
野村哲男
少年（妻畑）
花房大和
少女（妻畑）
花房莉得
満之（少年時代）
車又重介



movie京山

クローバ畑ロケ



movie京山

尾針神社ロケ

The Story Of Kyoyama



2007

★ この映画は、岡山市京山地区の『人と歴史と文化を映像で残したい』という目的で、京山公民館を中心に有志が集まり制作しました。今回は「地域を創った人々」がテーマです。



弥生住居

昔。。。現在の岡山平野一帯は海であり、津島の半田山の麓あたりが海岸線で、京山や万成山・尖旗山は海に浮かぶ島でした。京山地区には弥生早期の遺跡がたくさんあります。



「おしいちゃんあに一緒に遊びに行こう」



「聲音寺用水は昔が5丈切取川なんじや」



岡山県総合グラウンド



岡山大空襲



地面をノート代わりに遊ばしました

岡山県総合グラウンドで地熱の方々に京山地区のお話を教えてもらいました。ここは練兵場だった事、昭和20年6月29日の岡山大空襲では、街は燃え、悲しい別れと苦しい日々が続いた事、そんな中で、みんなで力を合わせて今の京山地区を築いてきた事。

人口およそ24,000人が住む京山地区

- ◆ 地域の施設を調べました。
- ◆ 地域に広がる様々な活動の輪を知りました。
- ◆ 地域のみなさんに「京山地区の魅力」を聞いてみました。



妻畑祭り大会



知的障害者(児)パノコン講習会



匠っとスペース放課後



KEEP



地域を創った人々から地域を創る人々へのノットタッチは永遠に続きます。



目標3. 言葉や文化の壁を越えて、同じ地域に住む外国人と共生する地域をつくります。



多文化共生プロジェクト 「フレンドリー京山」

お互いの文化や風習を理解し
認め合う活動や居住外国人用の
「お医者さんMap」づくり等

フレンドリー京山

2011年7月 地域での新しいつながりの形を求めて発足。
ESDフェスティバルで成果発表。「地球めぐり」や「World Club」を実施。
幼稚園や小学校に子どもが通っている保護者に対しての日本語サポートも。

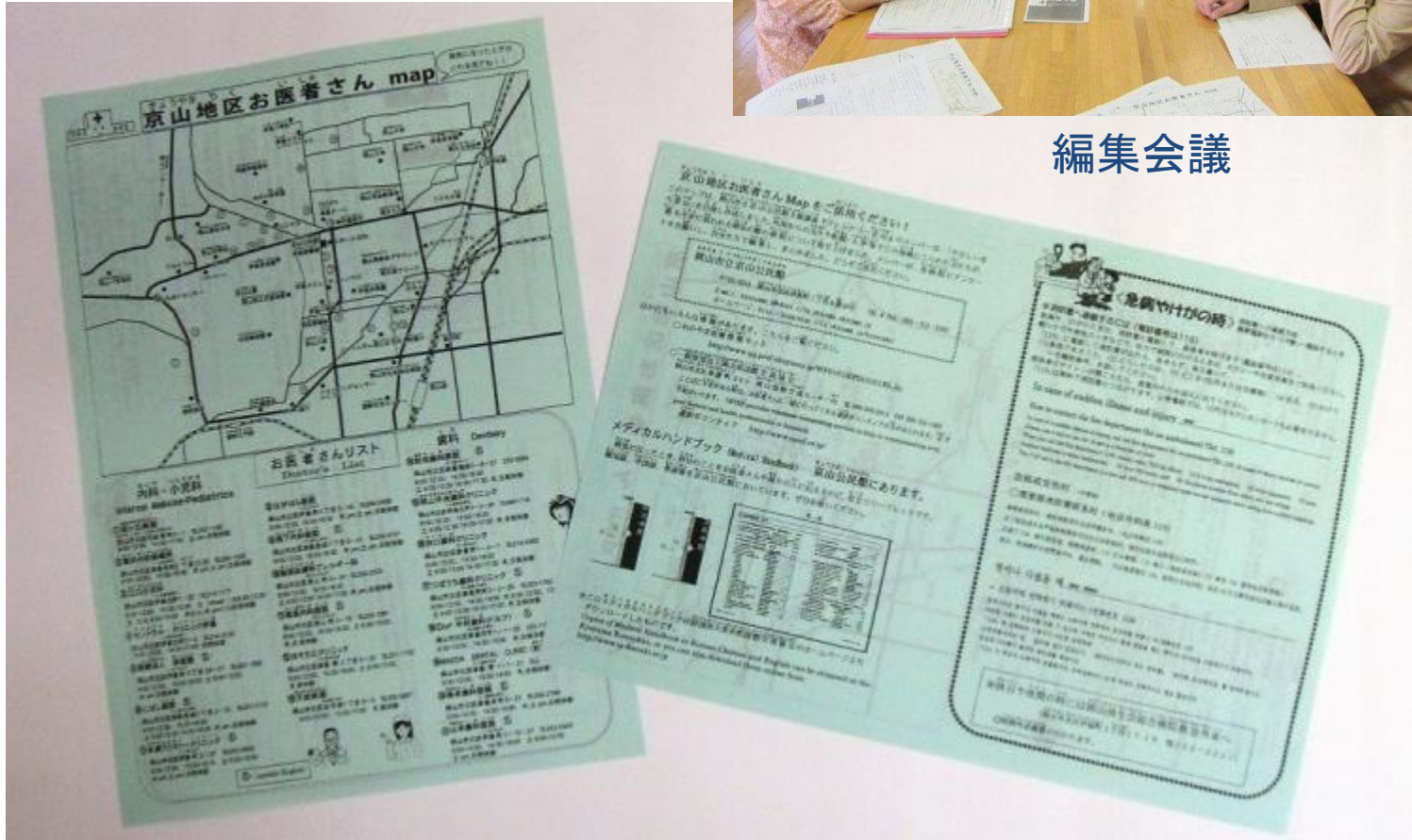


フレンドリー京山

「お医者さんMap作り」地区内に居住されている外国人市民のために医療機関Mapを編纂。2012年7月発行。



編集会議



目標4. 障害者や高齢者も誰もが安心して暮らせる、安全で安心な住みよい地域をつくります。



「地域の絆プロジェクト」

防災学習会などのほかに、障害を持つ子どもも達や子育て世代や高齢者の問題などに地域ぐるみで取り組む「地域の絆プロジェクト」を進めています。子どもから高齢者まで世代を超えて参加。

東日本大震災企画 「今、私たちができること」

2011年3月の東日本大震災以降、震災と、震災以降の社会とどのように向き合うべきか学びあい、話し合っています。地元の人と移住してきた人との交流の場にもなっています。年3回実施。2016年9月で18回目となります。



＜地域の課題解決＞

自転車マナーの向上をめざして やさしくはしろう京山運動

- 以前から自転車マナーが悪いことは地域課題としてあがっていた
- 2015年京山地区ESDフェスティバルで「京山地区の魅力と課題」を話し合う中でのある外国人の方の発言～「自国では自転車にほとんど乗っていなかった。岡山に来て自転車に乗るようになったが、最初は慣れずこわかった。用水に柵がないし、若い人たちはスピードをだして走る人も多い。自動車のように自転車にも初心者マークがあったらよいと思う」
- 高齢者の方々も共感、「地域の絆プロジェクト」で実践できないか相談、岡山工業高校のデザイン科の協力
- ESD推進協議会として「自転車プレート」作成

- 2015年度、岡山市区づくり推進事業として「やさしく走ろう京山運動」を申請し、自転車プレートを1200枚作成し、公民館利用者、地域内の老人クラブ、交通安全対策協議会、京山中学校1年生全員、伊島小・津島小の4年生に配布
- 2016年1月の「京山地区ESDフェスティバル」では「自転車問題」について考えあうワークショップを開催。中学生から地域の大人たち、市の自転車対策担当、用水路対策担当の職員、警察署員など約80名が参加し、マナー向上のための取り組みや地域内の危険個所について話し合った。「自転車プレート」をつけることで、自分自身のマナー向上、安心感が広がっていることを確認
- 2016年度は、中学生がつけたい自らがデザインした「自転車プレート」を作成中。自転車マナー向上のための教室を開催したり、他にも何ができるかを検討中